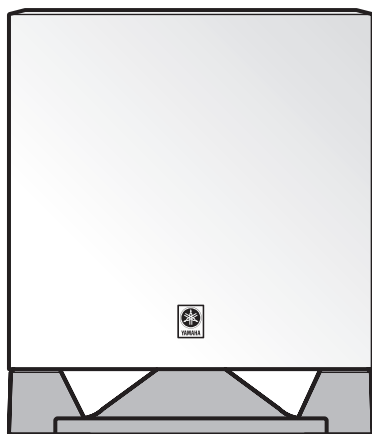
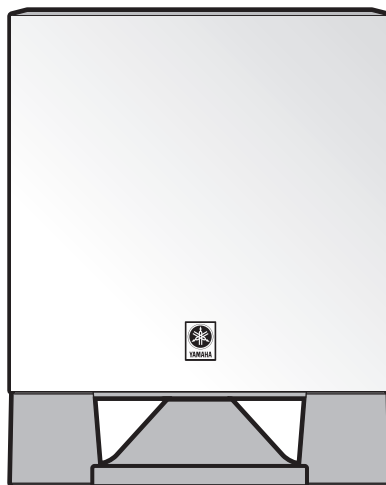
サブウーファーシステム

YST-SW010
YST-SW030

サブウーファーシステムYST-SW010/030を
お買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

取扱説明書

保証書別添付

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。

たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。

たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。

たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

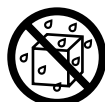
・異常なにおいや音がする。
・煙が出る。
・内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

・重いものを上に載せない。
・ステープルで止めない。
・加工をしない。
・熱器具には近づけない。
・無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

・浴室、台所、海岸、水辺
・加湿器を過度にきかせた部屋
・雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解･改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。

修理･調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため、本機を設置する際には：

・布やテーブルクロスをかけない。
・通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
・あおむけや横倒しには設置しない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ず AC 100 V (50/60 Hz) の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機の通風孔やサブウーファーのポート (右側面開口部) 等にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶･植木鉢･コップ･化粧品･薬品･ロウソクなどを置かない。

･水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
･サブウーファーの振動によりものが落下してけがの原因となります。
･接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機（または接続機器）の電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

・機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
・コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

必ず行う

電源プラグは確実にコンセントに根もとまで差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱·火災の原因となることがあります。

禁止

ポート (右側面開口部) には手を入れない。

感電やけがの原因となることがあります。

禁止

持ち運ぶときにはポート (右側面開口部) に手をかけない。

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

ポート (右側面開口部) のそばには割れやすいものなどを置かない。

ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン·シンナー·合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止

本機に乗ったりしない。

転倒·落下したり破損したりして、けがの原因となることがあります。

注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、アンプの電源を切り、説明に従って接続してください。

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

特長

アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー

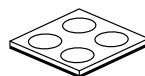
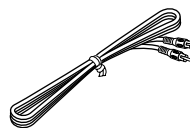
アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジーは、スピーカーとアンプの組み合わせにより振動板を効率よくスムーズに動かし最大音圧時のリニアリティを大幅に改善したユニークなシステムです。

QD·Bass TECHNOLOGY

QDベーステクノロジー

QD（キューディー）ベーステクノロジーは、低音エネルギーを４水平方向に効率よく放射するヤマハ独自のテクノロジーです。

付属品

付属品を確認してください。

滑止パッド

サブウーファーケーブル (5 m)

サブウーファーの設置

重低音域の波長は無指向性に近く方向感覚が薄いため、サブウーファーの設置位置は他のスピーカーほど重要ではありませんが、図 A のように左右フロントスピーカーのどちらか外側に設置すると良好な効果が得られます。

以下の図 B のように正面に向けて設置した場合、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまい、良い効果が得られないことがあります。これは部屋のなかにできる定在波の影響によるものです。これを避けるため、サブウーファーは図 A のように設置されることをお勧めします。

図 A

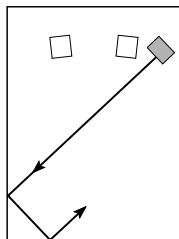
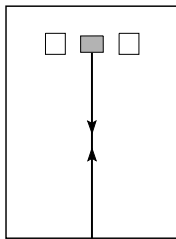



図 B

■ サブウーファー　□ フロントスピーカー

サブウーファー設置上のご注意

- サブウーファーはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から 20cm 以上離して設置してください。
- 大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、サブウーファー自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてご使用ください。
  共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。

滑止パッドの使い方

下図のように付属の滑止パッドをサブウーファー底面の 4 隅に張り付けてください。振動によりスピーカーがすべるのを防ぎます。

接続のしかた

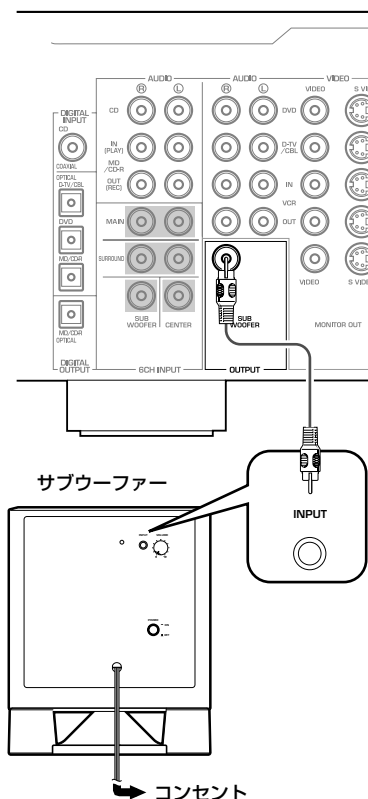
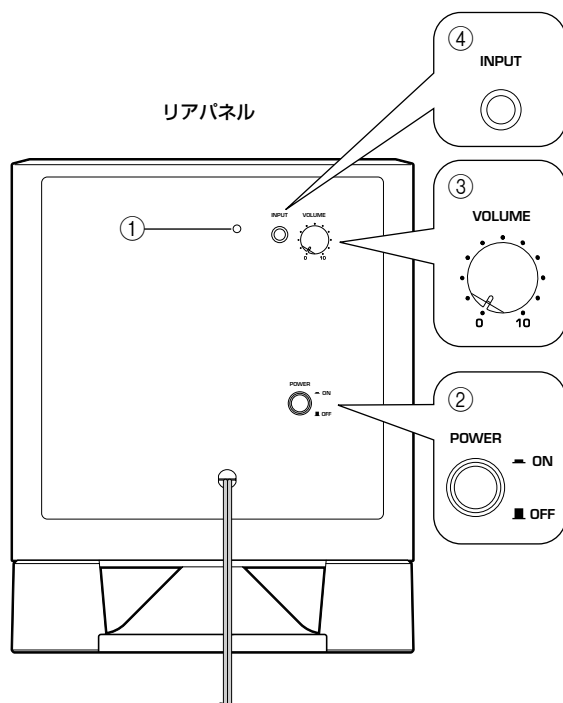
正しい接続のために

- 接続は、接続する全ての機器の電源コードを、コンセントからはずしたうえでおこなってください。
- 接続する機器（アンプ、レシーバーなど）によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

付属のサブウーファーケーブルを使用して、本機背面の INPUT 端子を AV アンプのサブウーファー出力端子に接続します。
アンプにサブウーファー出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続します。

AV アンプ（例）

電源コードの接続

電源コードの接続は、本機とその他の機器の接続が全て完了してからおこなってください。
電源コードは AC100V の家庭用コンセントに接続してください。

サブウーファーの使い方

①Power インジケーター
電源スイッチを入れると緑色に点灯します。

②POWER スイッチ
スイッチを押すと、Power インジケーターが緑色に点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、Power インジケーターが消灯し、電源が切れます。

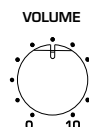
③VOLUME（ボリューム）
本機の音量を調節するツマミです。
右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

④INPUT 端子
アンプのサブウーファー出力端子またはアンプのライン出力端子（PRE OUT など）からの信号を入力する端子です。

音量バランスの調整

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー（フロント）と本機の音が自然につながるように音量バランスを調整する必要があります。

1. 本機の音量を最小にします。
2. アンプおよび各機器の電源を入れます。
3. 本機のPOWER スイッチを押して本機の電源を入れます。
   インジケーターが緑色に点灯します。
4. 低音を含んでいるソースを再生します。
5. フロントスピーカーの音量をアンプで調節します。通常お聴きになる音量にします。（トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。）
6. 本機の音量（ボリューム）を徐々に上げていき、フロントスピーカーとの音量バランスをとります。本機がないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

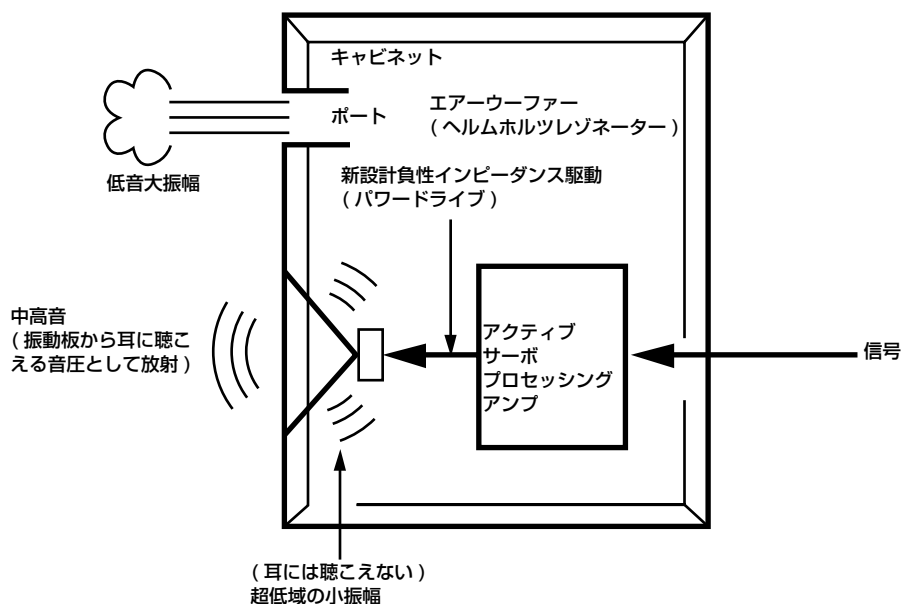
メモ マルチチャンネルのホームシアターシステムでは、本機の VOLUME ツマミを中程度のレベルに設定するといいでしょう。

Advanced Yamaha Active Servo Technology

アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー

1988年、ヤマハは独自のYST (Yamaha Active Servo Technology) 方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーをダイレクトに近い状態で電気的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールすることができます。

さらに負性インピーダンスコンバーター、N.I.C. (Negative Impedance Convertor) によりスピーカーユニットがきちんとコントロールされるので、スピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を高めることが可能になり、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー (エアウーファー) が生み出し可能となります。これにより従来不可能であった、小さなキャビネットから、より低い音まで再生することが可能となりました。

最初にYST方式を提案し、このテクノロジーを使ったスピーカーシステムを世に送り出して10年、ここに新しくヤマハが開発しましたAdvanced YSTは数々の改良を従来のYSTに加え、アンプとスピーカーの接続をより理想的なレベルにするものです。

スピーカーはアンプに比べて小信号入力時と大信号入力時で動作が大きく変化します。このためアンプ側から見たスピーカーの抵抗値 (動的インピーダンス) も動作状態によって変化します。そこでスピーカーの動的インピーダンスに応じてN.I.C.を変化させればより理想的なYSTになると考え、数々の試作実験を繰り返した結果、新設計「Advanced Negative Impedance Convertor=A.N.I.C.」回路を開発することに成功しました。これにより従来のYSTに比べて、より動作が安定し、最大音圧が向上し、さらに自然でよりエネルギッシュな低音再生が実現可能になりました。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください．そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外の異常が認められる場合は、サブウーファーの POWER スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすれば OK です
POWER スイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	POWER スイッチを切ってから、電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置を変えてみてください。
	サブウーファーケーブルの接続が悪い。	サブウーファーケーブルをしっかり接続してください。
音が出ない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	本機のボリュームが最小（0）になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー出力端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。

仕様

YST-SW010

型式....アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー

スピーカーユニット............. 16 cm (6.5") コーンタイプ
防磁型

アンプ出力..50W

ダイナミックパワー.. 100W/5Ω

入力インピーダンス..12kΩ

再生周波数帯域..30Hz ～ 200Hz

入力感度.................................50mV (50 Hz, 50W/5Ω)

電源 / 電圧....................................AC100V、50/60Hz

消費電力...30W

寸法（幅×高さ×奥行き）
....280 × 325 × 293 mm

質量
....8.5kg

YST-SW030

型式...アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー

スピーカーユニット................. 20 cm (8") コーンタイプ
防磁型

アンプ出力..75W

ダイナミックパワー...130W/5Ω

入力インピーダンス...12 kΩ

再生周波数帯域...................................... 28Hz ～ 200Hz

入力感度.................................70mV (50Hz, 75W/5Ω)

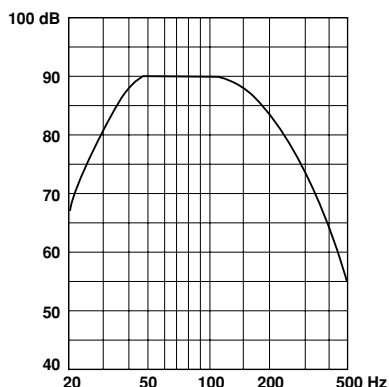
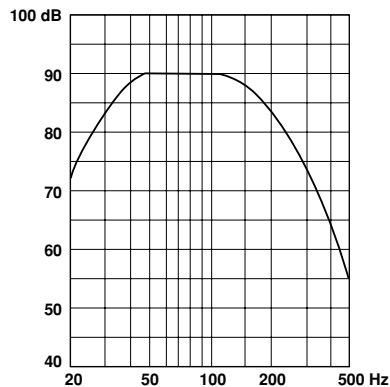
電源 / 電圧....................................AC100V、50/60Hz

消費電力...40W

寸法（幅×高さ×奥行き）
.... 290 × 360 × 311 mm

質量
.... 10kg

周波数特性図

<YST-SW030>

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL （0570）01 – 1808（ナビダイヤル）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL （053）460 – 3409

FAX （053）460 – 3489
住所 〒430-8650
静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00〜12:00，13:00〜18:00
（日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。）

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

（ヤマハ電気音響製品サービス拠点）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ（株）和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ（株）名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ（株）千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四　国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
（株）ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1